

これはアストラゼネカ英国本社が2008年7月30日に発信したプレスリリースの日本語訳です。  
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

## AstraZeneca PLC 2009年第2四半期・上半期業績

ロンドン発 2009年7月30日

### 第2四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで9%増の79億5,800万ドル

- クレストールの売上はCERベースで33%増。四半期売上ですべて初めて10億ドルを突破しました。
- *Toprol-XL*の米国の売上は、後発品の市場撤退がプラスに影響し、CERベースで全世界の売上成長の3%を占めました。
- 新興市場の売上はCERベースで8%増加し、通年の二桁成長に向け順調に推移しました。

### 第2四半期中核営業利益は、売上増、その他収入の増加、および業務の効率化により、CERベースで37%増の36億600万ドル

### 第2四半期中核一株当り利益（EPS）はCERベースで37%増の1.64ドル

### 第2四半期の報告ベースのEPSはCERベースで10%増の1.18ドル

- 第2四半期に4億3,000万ドルの引当金を計上しました。これは医薬品のマーケティングおよび価格設定慣行に関わる様々な連邦政府や州政府による調査および民事訴訟に関連する引当金です。

### 堅調な現金収支により2008年12月31日以降正味負債が30億ドル減少

### 取締役会は7%増の第1回中間配当0.59ドルを勧告

### 第1四半期以降3製品の医薬承認申請を行うなど、パイプラインは引き続き進捗

- 米国で *Cetriad*（脂質異常）と *Vimovo*（関節炎の疼痛緩和）の承認申請が行われ、米国と欧州で *Zactima*（肺がん）の承認申請が行われました。
- イレッサは欧州で肺がん治療薬として承認されました。
- 医薬品審査庁の医薬品委員会（CHMP）が新規糖尿病治療薬 *ONGLYZA™* の承認を勧告しました。

### 中核EPSの通年目標を5.70~6.00ドルに上方修正

### ファイナンシャルサマリー

グループ	第2四半期 2009 100万ドル	第2四半期 2008 100万ドル	前年 同期比 %	CER %	上半期 2009 100万ドル	上半期 2008 100万ドル	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,958	7,956	-	+9	15,659	15,633	-	8
報告ベース								
営業利益	2,851	2,473	+15	+19	6,014	4,730	+27	+28
税引き前利益	2,608	2,279	+14	+18	5,611	4,422	+27	+27
1株当り利益	\$1.18	\$1.11	+6	+10	\$2.66	\$2.14	+24	+24
中核*								
営業利益	3,606	2,737	+32	+37	6,968	5,502	+27	+28
税引き前利益	3,363	2,543	+32	+38	6,565	5,194	+26	+28
1株当り利益	\$1.64	\$1.25	+31	+37	\$3.22	\$2.53	+27	+28

\*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であるとするIFRS(国際財務報告基準)とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2009年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標については10ページを、中核と報告ベースの財務指標の調整については10ページと11ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました: 「厳しい世界的な経済状況の中で、当社は予想を上回る業績を達成することが出来ました。着実な業務の遂行とともに *Toprol-XL* の利益により、堅調な上半期の業績を達成し、これを反映して通年の中核EPS目標が上方修正されました。第1四半期の業績発表以降の重要な新薬承認申請や承認により開発パイプラインの継続的な進捗が証明されました。」

## 中間マネジメントレポート

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 第2四半期

第2四半期の売上高はCERベースで9%増でしたが、為替変動の影響を受け実質ベースで横ばいでした。後発品2製品が市場から撤退したため、Toprol-XLの米国の売上が伸びたことがプラスに影響しました。この影響を調整すると、全世界の売上高は、6%増でした。米国市場の売上高は、13%（Toprol-XLを除くと6%）増加しました。米国以外の市場の売上高も6%増でした。既成市場の売上高は5%増でした。新興市場の売上高の伸びは8%で、最近の四半期の中では低めではあったものの、概ね当社の予測通りです。新興市場の二桁の売上増は、通年ベースで達成されると予想されます。

第2四半期中核営業利益は、37%増の36億600万ドルでした。中核営業利益増の約60%が、売上高の増加によるものです。それ以外の部分は、業務の効率化と特定の北欧向けOTC製品の売却に関連する収入増によるものです。報告ベース営業利益は、19%増の28億5,100万ドルでした。この伸び率は中核営業利益の伸びより18ポイント低くなっていますが、これは2009年第2四半期に、医薬品のマーケティングおよび価格設定慣行に関わる様々な連邦政府や州政府による調査および民事訴訟に関連して4億3,000万ドルの引当金を計上したことによるものです。

第2四半期中核一株当たり利益（EPS）は、2008年第2四半期の1.25ドルから、CERベースで37%増の1.64ドルとなり、同四半期中核営業利益の伸びに沿ったものになりました。第2四半期の報告ベースの一株当たり利益（EPS）は、法務関連引当金の計上や事業再構築・相乗効果プログラム費用増により、10%増の1.18ドルでした。

### 上半期

上半期の売上高はCERベースで8%増加しましたが、為替変動の影響を受け実質ベースで横ばいでした。米国市場の売上高は、10%（Toprol-XLの寄与を控除後では5%）増、米国以外の市場の売上高は6%増でした。既成市場の売上高は4%増、新興市場の売上高は11%増でした。

中核営業利益は、2008年上半年比で売上が増え、業務が効率化され、その他の収入も増えたことから、28%増の69億6,800万ドルでした。報告ベース営業利益は60億1,400万ドルで、中核営業利益の伸びと同様の28%増でしたが、これは2009年第2四半期の法務関連引当金のマイナス影響を2008年第1四半期のEthyolの評価減が上回ったためです。

上半期中核一株当たり利益（EPS）は、28%増の3.22ドルで、中核営業利益の伸びに沿ったものになりました。報告ベースでのEPSは24%増の2.66ドルでしたが、これは前述の法務関連引当金やEthyolの評価減、また事業再構築・相乗効果プログラム費用増の影響によるものです。

### 研究開発の最新情報

研究開発パイプラインの総合的な最新情報は、2009年上半年の業績発表に関連して提供されており、当社ウェブサイト[www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com)の投資家向け情報でご覧になれます。

当社のパイプラインには現在142のプロジェクトがあり、このうち98件は臨床開発の段階にあります。第III相または規制当局による審査中の開発後期には10のプロジェクトがあります。ポートフォリオ全体では、1月29日の更新以来24のプロジェクトが順調に次の段階へと移行しました（うち11の分子化合物が最初の臨床試験を開始）。また、14種化合物が創薬研究の段階から追加され、14の化合物の開発が中止となりました。

第1四半期の更新以来、パイプラインは引き続き進捗し、下記の3製品に関し承認申請が行われました：

#### **Certriad**

2009年6月4日当社およびアボット社は、両社が高LDLコレステロール（悪玉コレステロール）血症、高トリグリセリド血症、および低HDLコレステロール（善玉コレステロール）血症等の脂質異常症の組み合わせである複合脂質代謝異常の治療のための治験化合物の新薬承認申請（NDA）を、米国食品医薬品局（FDA）に提出したことを発表しました。このNDAはCrestor（ロスバスタチン・カルシウム）とTRILIPIX™（フェノフィブリン

酸)の活性成分を含む定量配合剤に関するもので、承認が得られれば、Certriadとして市販されます。

### **Vimovo**

2009年6月30日、当社は、開発パートナーである Pozen 社が、NSAID（非ステロイド性消炎鎮痛剤）に起因する胃潰瘍に進展する危険性のある患者の、変形性関節炎（OA）、関節リウマチ（RA）および強直性脊椎炎（AS）の兆候と症状の治療薬 Vimovo（PN400）を米国 FDA に承認申請したと発表しました。PN400 は腸溶性ナプロキセンと速放性エソメプラゾールの定量配合剤です。予定製品名は Vimovo で、現在規制当局の承認待ちの状態です。

### **Zactima**

2009年6月当社は、米国およびEUにおいて進行非小細胞肺癌（NSCLC）の2次治療としてZactima 100mg/日を化学療法との併用療法として新薬承認申請を行ないました。

EGFRチロシンキナーゼ阻害剤による治療後の進行NSCLCを対象にZactima 300mgを検討した第Ⅲ相臨床試験 ZEPHYRおよび、ZETA（進行性甲状腺がんを対象にZactima 300mgによる単剤治療を検討した試験）の結果は、2010年上半期に公表される予定です。

その他の重要なパイプラインの開発には以下のものがあります：

### **ONGLYZA™**

当社とBristol-Myers Squibb社は、ONGLYZA™（saxagliptin）の製造販売承認申請について、欧州医薬審査庁の医薬品委員会（Committee for Medicinal Products for Human Use：CHMP）から、成人の2型糖尿病の治療においてメトホルミン、チアゾリジンジオンまたはスルホニルウレアによる治療の併用治療薬として肯定的な見解を得ました。

CHMPのONGLYZA™に関する肯定的な見解は現在、EUの薬事承認の権限を有する欧州委員会で検討されています。当社とブリストルマイヤーズ・スクイブ社は、欧州委員会がこの2型糖尿病治療薬について、今後数カ月以内にEU地域での製造販売承認の決定を下すものと考えています。

ONGLYZA™ NDAのFDAによる審査期限は、処方箋薬ユーザー・フィー法（PDUFA）により2009年7月30日です。

### **イレッサ**

2009年6月1日当社は、欧州委員会がEGFR-TK（上皮成長因子受容体—チロシンキナーゼ）の遺伝子変異を有する、局所進行性または転移性のNSCLC成人患者を対象に治療歴を問わず、経口抗がん剤 Iressa の製造販売承認を行なったことを発表しました。承認は Iressa を化学療法と比較した2つの主要な第Ⅲ相臨床試験 IPASS および INTEREST を含む申請資料に基づくものです。

### **Brilinta**

2009年5月11日当社は、第Ⅲ相試験、PLATO（A Study for Platelet Inhibition and Patient Outcomes：血小板抑制試験および療法効果）試験の目覚しい結果を発表しました。これは、急性冠症候群（ACS）の経口抗血小板治療薬Brilinta（ticagrelor）がclopidogrelに対して、ACS患者の心血管（CV）イベント予防において有意に有効性を示したものです。主要有効性評価は心筋梗塞、脳卒中および心血管死などのイベントの最初の発生までの期間です。

PLATO試験では、Brilintaの全体的な安全性は第Ⅱ相試験の安全性データに合致していました。PLATO試験の規模を受け、全体的なデータベース、副次的評価項目およびサブグループのさらなる分析が現在行われているところです。PLATO試験の結果は、2009年8月30日の欧州心臓学会で発表される予定です。

Brilintaの規制当局への申請は、2009年第4四半期を予定しています。

### **クレストール**

JUPITER試験で明らかにされた心血管イベントの有意な減少をクレストールの添付文書に反映させるための申請については、予定通り米国では4月に、欧州では2009年第2四半期に提出され、現在規制当局による審査を受けています。

2009年7月、米国FDAは、当社が小児患者について行った治験に基づいて、クレストールを独占販売する6カ月の追加期間を承認しました。特許期限満了後に有効となると、クレストールの独占期間は2016年7月8日まで延長されます。

### **Symbicort**

6～11歳の小児喘息患者に使用するSymbicortの追加新薬承認申請に関し、当社が2009年4月にFDAから受領したComplete Response Letter (CRL)に基づいて、この対象患者でのSymbicortの承認を裏付けるため、追加の治験を実施する必要があります。

この追加治験のために、FDAの承認が大幅に遅れることとなります。現在、当社はFDAと必要な追加臨床試験プログラムを協議中で、その協議終了後には詳細情報を提供できると考えています。

### **セロクエル XR**

2009年6月に当社は、成人患者の大うつ病性障害 (MDD) 治療薬としてのセロクエルXRの追加新薬承認申請に関して2008年12月にFDAから受領したCRL(Complete Response Letter)に対する回答を提出しました。この提出により、FDAによる6ヶ月間の審査が開始されると理解しています。

2009年5月29日、当社は、大うつ病性障害 (MDD) を持つ成人患者の反復性うつ病性障害治療薬としてのセロクエルXRの申請を、医薬品委員会 (CHMP) に照会したことを発表しました。この照会は、相互承認プロセスの (MRP) の参照加盟国を代表して、オランダ保健当局 (Netherlands Health Authority : MEB) から、MDD治療薬としてのセロクエルXRの申請が却下された旨の通告を受けて行いました。

現在までに、カナダとオーストラリアで、MDD治療薬としてセロクエル XRが承認されています。

### **新型インフルエンザA (H1N1) ワクチン**

MedImmune社の技術と能力は、新型インフルエンザA (H1N1) ウィルスに対する弱毒性生ワクチン (LAIV) 開発における着実な進歩によって証明されています。現在までに、MedImmune社は逆遺伝学的方法として知られる特許を有する自社独自のプロセスを用いてマスター・ウィルス・シード候補の生産に成功しており、それらの株は順調に成長しています。

7月24日、FDAのワクチンおよび関係生物学的製剤諮問委員会 (Vaccine and Related Biological Products Advisory Committee: VRBPAC) への説明の中で、MedImmune社は当初製造ロットのワクチン収量に基づいて、同社が原薬ワクチン総計2億接種分の生産が可能であり、そのうち約4,000万接種分を2010年3月までに経鼻スプレーに封入できるとの見通しを報告しました。最終製品化された接種分の数量は、現時点では、スプレー入手上的の問題により制限がありますが、MedImmune社はスプレーの供給を増やす措置を講じており、かつ米国政府と協力して代替供給手段を定めているところです。

新型インフルエンザA (H1N1) ワクチンについての、強固な治験プログラムがまもなく開始され、患者の登録が8月中旬に予定されています。公衆衛生当局がこの治験の終了を待たずに、H1N1ワクチンの緊急使用の必要性を認めれば、MedImmune社の新型インフルエンザA (H1N1) ウィルスに対するワクチンは、早ければ9月には入手可能になる見込みです。

### **AZD0837**

第III相治験用の経口抗凝固薬AZD0837治験薬の錠剤の安定性に関し以前に特定された問題を解決するための作業プログラムはほぼ完了し、同プロジェクトは現在「第III相の準備完了」と考えられます。当社はまだ第III相開発プログラムの範囲を確定していませんが、最も早く第III相を開始できるのは2009年下半年です。当社は外部パートナーとの協働を検討する等、さまざまな選択肢を模索しています。

### **生産性の向上**

既に発表している事業再構築プログラムが、順調に進行しています。第2四半期に事業再構築・相乗効果プログラム費用1億9,000万ドルを計上し、上半期では合計2億6,200万ドルが計上されました。

すべてのプログラムは目標達成に向けて順調に進行しており、2010年までに年間21億ドルの経費削減が見込まれ、2013年までにはさらに4億ドルの経費削減が予想されます。

## 今後の見通し

世界的に厳しい経済環境の中ではありましたが、業績は当社の予想を上回りました。着実な業務の遂行、好調なToprol-XLの売上、米国市場へのCasodex後発品の参入遅延等の一時的な恩恵により、上半期は好業績を達成することができました。これら要因のすべてと、年度末までの予測（最大4,000万投与量の生産能力の、新型インフルエンザA（H1N1）ワクチンによるある程度の影響を含む）が、通年ベースでの財務ガイダンスの上方修正に反映されています。

現時点、当社は、通年でCERベースの売上の伸びが約一桁台半ばになると予測しており、利益に関しては一時的な項目が約半分を占めると予測しています。中核EPSは現在のところ、5.70ドルから6.00ドルの範囲内になることが予想されています。この中核EPSガイダンスの上方修正は、業務上の実績にのみによるもので、為替の影響はありません。

この目標は、2009年の残存期間の平均為替レートが、それに基づいて当社の収益ガイダンスが作成された2009年1月の平均レートから、大きく逸脱する可能性を考慮していません。米ドルに対する当社の主要取引通貨の変動によって、売上高や収益が受ける影響度の予想は、2008年度通年決算発表とともに示されており、当社ウェブサイトで閲覧可能です。

事業に影響を及ぼす、年次報告書の76-82ページおよび書式20-F2008年インフォメーションに提示されている主要リスクと不確定要因の性格が、会計年度の下半期で変化するとは予想していません。

要約すると、年次報告書および書式20-F2008年インフォメーションにリストアップされた主要リスクと不確定要因は以下のとおりです：

### 産業・経済リスク

特許または排他的独占権の満了、特許訴訟、および特許、排他的独占権または商標の期限前喪失、競合製品を対象とする特許の満了または期限前喪失、特許保護を取得しなかったこと、為替レート変動の影響、債務返済資金調達の見直し、貸倒、持続的景気後退による悪影響、生物製剤およびワクチン事業を保有し、経営すること、競争、価格管理および値下げ、課税、多額の製造物責任請求、新製品の性能、環境・職業・保健および安全性責任、新興市場で当社事業を展開すること、および製品の偽造です。

### 法律・コンプライアンス・規制リスク

訴訟や政府による調査の不利な結果や不十分な保険の付保、規制当局の承認の取得や維持が困難だったり、継続的な規制当局の監督に従えないこと。

### 業務執行リスク

新製品が商業的成功をおさめるための課題、当社の対外戦略の一環として形成された買収や戦略的提携が不首尾であること、原材料やサービスの供給を第三者に依存すること、新商品発売の遅延、情報技術やアウトソーシング、生産性向上政策が失敗すること。

## 売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Nexium	1,246	1,323	+1	2,438	2,561	+2
Losec/Prilosec (オメプラール)	245	290	-10	456	542	-12
合計	1,514	1,634	-	2,941	3,144	-

- Nexiumの米国の第2四半期の売上高は、前年同期比4%減の7億2,400万ドルでした。小売部門の調剤量は0.5%増加しました。Nexiumは、同四半期で販売が伸びた唯一の主要PPIブランドでした。Nexiumの平均実勢小売価格は、約3%下落しました。
- 米国のNexiumの第1四半期の売上高は、4%減の14億2,900万ドルでした。
- その他の市場におけるNexiumの第2四半期の売上高は、8%増の5億2,200万ドルでした。西ヨーロッパでの売上高は6%増、カナダとオーストラリアでは二桁の売上高の伸びがありました。新興市場の売上高は8%増で、中国の31%の売上増が含まれています。
- その他の市場におけるNexiumの第1四半期の売上高は、10%増の10億900万ドルでした。
- 米国のPrilosec（オメプラール）の売上高は、第2四半期には75%減、上半期では69%減でしたが、これは2008年下半期に40mg剤型の競合後発品の参入があったためです。
- 米国以外のLosec（オメプラール）の売上高は、第2四半期5%増加し、日本と中国では二桁の伸びとなりました。米国以外のLosec(オメプラール)の上半期売上高は1%増でした。

### 循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Crestor	1,129	916	+33	2,098	1,688	+34
セロケン/Toprol-XL	417	206	+112	705	396	+87
Atacand	356	388	+6	679	734	+6
Plendil	60	70	-7	121	136	-6
ゼストリル	47	65	-17	94	124	-15
合計	2,148	1,807	+30	3,958	3,378	+27

- 米国の Crestor の第2四半期売上高は、32%増の5億4,700万ドルでした。Crestorの処方量合計は25%増えて、スタチン市場の成長率のほぼ4倍となり、後発シンバスタチンの伸びの26%に歩調を合わせています。総処方量中の Crestor のシェアは増えており、2009年6月には10.8%に達しました。Crestorのダイナミックシェア（新規および切り替え患者）は現在、15%超となり、シンバスタチンに次いで2位となっています。
- Crestorの米国での上半期売上高は、33%増の10億2,500万ドルでした。
- 米国以外の Crestor の第2四半期売上高は、35%増加して5億8,200万ドルとなりました。ここ数カ月の Crestor の販売量の増加は、既存および新興市場でのスタチンの市場成長率の3-4倍にもなっています。西ヨーロッパ（23%増）、カナダ（32%増）、日本（68%増）およびオーストラリア（76%増）での伸びが顕著でした。新興市場での売上高は33%増でした。
- 米国以外の Crestor の上半期売上高は、34%増の10億7,300万ドルでした。
- 自社後発品を含む Toprol-XL 関連製品の米国での売上高は、第2四半期320%増の2億9,800万ドルでした。また、

同フランチャイズの総処方量は2倍以上増えました。売上増が処方増を上回ったのは、供給体制が回復したことによる自社後発品の売上増と価格変更によります。競合後発品2製品が米国市場から撤退したままであり、これらの製品が市場に復帰する時期、可能性、あるいは新規後製品が承認される時期を確かめるのは困難です。

- 米国でのToprol-XLのフランチャイズ売上高は、上半期に251%増の4億7,400万ドルでした。
- 米国以外のSelokenの売上高は、第2四半期、上半期とも2%増でした。
- Atacandの米国での売上高は、第2四半期の4%減、上半期では3%減少しました。米国以外のAtacandの売上高は、第2四半期に9%増、年初来では8%増となっています。

### 呼吸器及び炎症

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Symbicort	551	518	+24	1,066	989	+24
パルミコート	311	383	-14	603	794	-20
Rhinocort	72	92	-15	136	172	-15
Oxis	16	21	-5	28	38	-8
アコレート	16	19	-16	32	37	-11
合計	997	1,078	+4	1,932	2,118	+2

- 米国のSymbicortの第2四半期売上高は1億1,100万ドル、前年同期比95%増でした。この伸びは喘息市場への持続的な浸透と、COPDが新適応症として追加されたことによるものです。定量配合剤の新規処方量に占めるSymbicortのシェアは、2009年6月に13.9%に伸びましたが、本四半期中に1ポイントを超える伸びを示しました。配合剤療法を新たに開始する患者でのシェアは、現在22.9%です。
- 米国でのSymbicortの上半期の売上高は2億1,000万ドル、増加率は108%でした。
- 米国以外でのSymbicortの第2四半期売上高は、4億4,000万ドルと、前年同期を15%上回りましたが、この販売高の伸びは、現在96カ国の市場で認可されているSymbicort SMARTの寄与によるものです。西ヨーロッパでの売上高は、15%増加しました。新興市場での売上高は、同四半期19%増となりました。
- 米国以外の市場でのSymbicortの売上高は、14%増加して8億5,600万ドルでした。
- パルミコートの第2四半期売上高は、23%下落し、1億9,400万ドルとなりました。2008年末にTeva社によって出荷された、後発ブデソニド吸入用懸濁液 (BIS)は、市場シェアの減少が続いています。BIS処方量に対するパルミコート吸入液のシェアは、第2四半期に62%まで上昇し、第1四半期より48%増えました。当社はTeva社の後発薬の残存在庫が、2009年第3四半期中に販売店から無くなると見えています。
- 米国でのパルミコートの上半期売上高は、30%減の3億6,700万ドルでした。
- 米国以外でのパルミコートの上半期売上高は、横ばいの2億3,600万ドルでした。

### オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
アリミデックス	483	490	+7	946	920	+10
カソデックス	245	358	-29	481	674	-28
ゾラデックス	272	310	-1	504	565	-1
イレッサ	75	67	+10	143	125	+10
Faslodex	64	65	+9	123	121	+12
ノルバデックス	22	24	-4	42	42	-
Ethyol	5	6	-17	9	20	-55
合計	1,167	1,338	-6	2,250	2,503	-5

- 米国では、アリミデックスの売上高は、第2四半期に11%増えて2億2,400万ドルとなりました。アリミデックス

の総処方量は、乳がんのホルモン治療市場の2%の減少を若干上回る4%減でした。

- 米国でのアリミデックスの上半期売上高は、15%増の4億4,300万ドルでした。
- 米国以外でのアリミデックスの売上高は、第2四半期は3%増、上半期では7%増となりました。
- 米国でのカソデックスの第2四半期売上高は、21%減の6,200万ドル、総処方量は6%減少しました。4月に排他的独占権がなくなったことに伴い後発品の発売が予想されることから、在庫整理を行いました。2009年7月7日FDAは、8種のビカルタミド後発製品を承認しました。米国でのカソデックスの上半期売上高は、19%減の1億1,600万ドルでした。
- 米国以外のカソデックスの第2四半期売上高は、西ヨーロッパでの後発薬との競合の結果31%減の1億8,300万ドルで西ヨーロッパでは60%の売上高下落となりました。米国以外のカソデックスの上半期売上高は、30%減の3億6,500万ドルでした。
- イレッサの売上高は、日本（14%増）と中国（36%増）での販売実績に牽引され、上半期10%増の1億4,300万ドルとなりました。
- Faslodexの売上高は、上半期に米国では6%増、米国以外では16%増加しました。

### ニューロサイエンス

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
セロクエル	1,249	1,112	+18	2,374	2,162	+15
ゾーミッグ	107	114	+3	208	221	+2
合計	1,591	1,488	+14	3,023	2,866	+12

- 米国でのゾーミッグの売上高は、第2四半期に22%増の8億9,300万ドルでした。セロクエル・フランチャイズの総処方量は、第2四半期3.5%増加しましたが、この増加はすべてセロクエルXR処方への寄与によるものです。セロクエル・フランチャイズの市場シェアは、2009年6月にトップとなる31.2%（同4半期0.3%減）となりましたが、その中の2.3%はセロクエルXRが占めており0.8%増加しています。
- 米国でのセロクエルの上半期売上高は、16億9,300万ドルで、前年同期を18%上回っています。
- 米国以外でのセロクエルの第2四半期売上高は、3億5,600万ドルで、後発品との競合によりカナダで70%の売上減となったものの11%増加しました。西ヨーロッパでの売上高は22%増でした。新興市場での売上高は、28%増えました。
- 上半期では、米国以外でのセロクエルの売上高は、9%増の6億8,100万ドルでした。

### 感染症・その他

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
Synagis	54	81	-33	599	600	-
Merrem	213	226	+9	415	439	+8
FluMist	-	-	-	2	-	n/m
合計	302	365	-7	1,094	1,152	+1

- 米国のSynagisの上半期売上高は、3%増の5億200万ドルでしたが、その大半は第1四半期のRSウイルス感染症（乳児急性気道感染症）の季節に計上されたものです。米国以外では、Synagisの売上高は13%減の9,700万ドルでした。
- 感染季節ではなかったため、通常通り第2四半期にFluMistの売上は計上されませんでした。
- 米国政府は2回に分けて、MedImmune社の新型インフルエンザA（H1N1）に対する弱毒性生ワクチンの総額1億5,100万ドルの発注を行い、2009年下半期に出荷が開始される予定です。このプロジェクトは全部または一部



が、HHS（保健社会福祉省）/ASPR(Assistant Secretary for Preparedness and Response)/BARDA(The Biomedical Advanced Research and Development Authority)からのフェデラル・ファンドによって費用負担されており、契約番号はHHS01002009000021です。

### 地域別売上

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2009 100万ドル	2008 100万ドル		2009 100万ドル	2008 100万ドル	
北米	3,843	3,463	+13	7,734	7,186	+9
米国	3,548	3,126	+13	7,172	6,527	+10
ROWの既成市場*	3,051	3,340	+5	5,885	6,313	+4
ROWの新興市場	1,064	1,153	+8	2,040	2,134	+11

\* ROWの既成市場には、西ヨーロッパ諸国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど）、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国の売上高は、第2四半期13%増、Toprol-XLを除くと、6%増加でした。セロクエル、クレストールおよびSymbicortは、同四半期の売上増を牽引し、Prilosec(オメプラール)、Nexiumおよびパルミコート吸入液の売上減を相殺しました。
- 米国以外の既成市場の売上高は、第2四半期5%増加しました。西ヨーロッパの売上高は、クレストール、Symbicortおよびセロクエルの売上増が、カンデックスの後発品による浸食の売上減を上回り、2%増でした。日本の売上高は11%増加しましたが、これは主にクレストール、オンコロジー・フランチャイズおよびオメプラールの売上が伸びたためです。オーストラリアの売上増17%の3分の2以上がクレストールによるものです。
- 新興市場の売上高は、第2四半期8%増加しました。この数字はここ数四半期の傾向を下回るものですが、概ね予想通りでした。ただし、メキシコの売上高はH1N1インフルエンザと現地販売網の変更により影響を受けました。中国の売上高は、同四半期25%増加しました。当社は通年ベースで、新興市場で二桁の売上増を予想しています。

## 営業およびフィナンシャル・レビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）ベースおよび中核ベースで示されています。以下の指標はGAAPとは異なる指標であり、当社の業績を理解しやすくするために採用しています。中核ベースの財務指標では、事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、償却、企業買収に伴う重要な無形資産の評価損、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取決めに関連する償却費やその他特定項目を除外して調整されています。これら調整のそれぞれの性質に関する詳細は、当社の年次報告書および書式20-F2008年インフォメーションに示されています。第2四半期中当社グループは、恒常為替レートで伸び率を計算する方法をより精細なものとししました。第2四半期および上半期に開示された恒常為替レート（CER）は、更新後の方法によって計算されています。

### 第2四半期

1株当たり利益を除く財務上の数は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	報告ベース 2009	事業再構築・相乗効果費用	メルク社および MedImmune社償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	中核 2009	中核 2008	前年同期比 %	CER %
売上高	7,958	-	-	-	-	7,958	7,956	-	9
売上原価	(1,464)	84	-	-	-	(1,380)	(1,431)		
売上総利益	6,494	84	-	-	-	6,578	6,525	1	10
売上高の%	81.6%					82.7%	82.0%	+0.7	+0.7
物流費	(70)	-	-	-	-	(70)	(75)	(8)	11
売上高の%	0.9%					0.9%	0.9%	-	-0.1
研究開発費	(1,059)	24	-	-	-	(1,035)	(1,265)	(18)	(3)
売上高の%	13.3%					13.0%	15.9%	+2.9	+1.8
販売一般管理費	(2,828)	82	100	-	430	(2,216)	(2,656)	(17)	(8)
売上高の%	35.5%					27.9%	33.4%	+5.5	+5.0
その他の収入	314	-	35	-	-	349	208	68	70
売上高の%	3.9%					4.4%	2.6%	+1.8	+1.5
営業利益	2,851	190	135	-	430	3,606	2,737	32	37
売上高の%	35.8%					45.3%	34.4%	+10.9	+8.9
正味金融支出	(243)	-	-	-	-	(243)	(194)		
税引き前利益	2,608	190	135	-	430	3,363	2,543	32	38
支払い税額	(891)	(61)	(37)	-	-	(989)	(719)		
税抜き後利益	1,717	129	98	-	430	2,374	1,824	30	36
少数株主持分	(10)	-	-	-	-	(10)	(8)		
純利益	1,707	129	98	-	430	2,364	1,816	30	36
加重平均	1,448	1,448	1,448	1,448	1,448	1,448	1,456		
株主数	1.18	0.10	0.06	-	0.30	1.64	1.25	31	37

売上高は実質ベースで横ばいでしたが、恒常為替ベースでは9%増でした。

第2四半期中核ベースの売上総利益82.7%は、前年同期を0.7ポイント上回りました。メルク社への支払い額の減少（0.4ポイント）、継続的な業務効率化による利益と混合要因（1.4ポイント）が、支払いライセンス料の増加（1.1ポイント）によって一部相殺されています。

第2四半期中核ベースの研究開発費は、10億3,500万ドルと、前年同期を3%下回りましたが、これはバイオ医薬品事業やMAP社の無形資産4,400万ドルの償却が、継続的な研究開発生産性向上プロジェクトおよびクレストールのJUPITER試験とBrilintaのPLATO試験に関連する費用が前年同期比減少したことによって、相殺される以上の効果があったためです。

第2四半期中核ベースの販売費及び一般管理費は、2008年第2四半期に対し8%減の22億1,600万ドルでした。これは、新興市場への継続的な投資が、米国および既成市場全体に及ぶ業務効率化および特定の法的費用が前年度から減少したことによって、相殺される以上の効果があったためです。

中核ベースの第2四半期のその他の収入は3億4,900万ドルで、前年同期より1億4,100万ドル増加しましたが、これは主に北欧の一般用医薬品（OTC）製品ポートフォリオを売却したことによるものです。

中核ベースの営業利益は36億600万ドルで、CERベースでは37%増、報告ベースでは32%増でした。前年と比較して、ドルはユーロに対して13%強く（売上高と費用が減少）、スウェーデン・クローナに対しても24%強く（費用が減少）、英ポンドに対しても22%強くなりました（費用が減少）。中核ベースの営業利益率は8.9%

上昇して売上高の45.3%となりましたが、これは売上高の増加と売上総利益、販売費及び一般管理費、研究開発費の改善、およびその他収入項目の北欧のOTCの売却益によるものです。

第2四半期中核ベースの1株当たり利益は1.64ドルと、37%増となりましたが、これは中核ベースの営業利益の増加が、税率の引き上げと正味金融費用の増加によって一部相殺されたためです。中核ベースの1株当たり利益は、為替変動の悪影響による6%を含む実質ベースでは31%の増加となっています。

報告ベースの営業利益は、19%増の28億5,100万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は1.18ドルでした。

## 上半期

1株当たり利益を除く表中の財務上の数字は、すべて100万ドル単位。加重平均株式数も100万単位。

	報告ベース 2009	事業再構築・相乗効果費用	メルク社 および MedImmune 社償却	無形資産 評価減	法務関連 引当金	中核 2009	中核 2008	前年同期比 %	CER %
売上高	15,659	-	-	-	-	15,659	15,633	-	8
売上原価	(2,847)	115	-	-	-	(2,732)	(2,901)		
売上総利益	12,812	115	-	-	-	12,927	12,732	2	9
売上高の%	81.8%					82.6%	81.5%	+1.1	+0.8
物流費	(134)	-	-	-	-	(134)	(141)	(5)	13
売上高の%	0.9%					0.9%	0.9%	-	-0.1
研究開発費	(2,039)	24	-	-	-	(2,015)	(2,447)	(18)	(2)
売上高の%	13.0%					12.9%	15.7%	+2.8	+1.4
販売一般管理費	(5,204)	123	199	-	430	(4,452)	(5,001)	(11)	(2)
売上高の%	33.2%					28.4%	32.0%	+3.6	+2.9
その他の収入	579	-	63	-	-	642	359	79	87
売上高の%	3.7%					4.1%	2.3%	+1.8	+1.7
営業利益	6,014	262	262	-	430	6,968	5,502	27	28
売上高の%	38.4%					44.5%	35.2%	+9.3	+6.7
正味金融支出	(403)	-	-	-	-	(403)	(308)		
税引き前利益	5,611	262	262	-	430	6,565	5,194	26	28
支払い税額	(1,750)	(82)	(67)	-	-	(1,899)	(1,501)		
税抜き後利益	3,861	180	195	-	430	4,666	3,693	26	28
少数株主持分	(8)	-	-	-	-	(8)	(10)		
純利益	3,853	180	195	-	430	4,658	3,683	26	28
加重平均	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,456		
株主数	2.66	0.13	0.13	-	0.30	3.22	2.53	27	28

売上高は実質ベースで横ばいでしたが、恒常為替ベースでは8%増でした。

上半期中核ベースの売上総利益率は82.6%と、前年同期比0.8ポイント上昇しました。メルク社への支払い額の減少（0.6ポイント）、継続的な業務効率化による利益と混合要因（1.2ポイント）が、支払いライセンス料の増加（1.0ポイント）によって一部相殺されました。

中核ベースの研究開発費は、20億1,500万ドルと、前年同期を2%下回りましたが、これは第2四半期について述べたのと同様の要因によるものです。

中核ベースの販売費及び一般管理費は、44億5,200万ドルと2008年上半期より2%低くなりましたが、これは新興市場への継続的な投資が、米国および既成市場全体の業務効率化によって、相殺される以上効果があったためです。

中核ベースのその他の収入は6億4,200万ドルとなり、2008年上半期より2億8,300万ドル増加しましたが、これは主にAbraxane®と北欧の一般用医薬品（OTC）製品ポートフォリオ売却によるものです。

中核ベースの営業利益は69億6,800万ドルと、CERベースでは28%増、実質ベースでは27%増でした。中核ベースの営業利益率は6.7%上昇して売上高の44.5%となりましたが、これは売上高の増加と売り上げ総利益、販売費および一般管理費、研究開発費の改善、またその他収入項目の売却益によるものです。

上半期中核ベースの1株当たり利益は3.22ドルと、28%増となりましたが、これは中核ベースの営業利益の増加と発行済み株式数の減少が、正味金融費用の増加によって一部相殺されたためです。中核ベースの1株当たり利益は、為替変動の悪影響による1%を含む実質ベースでは27%の増加となっています。

報告ベースの営業利益は、28%増の60億1,400万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は2.66ドルでした。

### 受取利息と支払利息

上半期の正味支払利息は、2008年の3億800万ドル（第2四半期は1億9,400万ドル）に対して、4億300万ドル（第2四半期は2億4,300万ドル）でした。これは主に以下に述べる正味公正評価による評価益の戻し入れを継続して行ったこと、金利低下に伴う受取利息の減少、年金債務に係る正味金融費用の増加、および債務残高の減少に伴う支払利息の減少による一部相殺が原因です。

正味支払利息には、第2四半期の正味公正評価による評価損の7,900万ドル（2008年第2四半期は3,600万ドルの損失）と上半期の1億ドルの損失（2008年上半期は800万ドルの利得）が含まれていますが、これは信用スプレッドが年末来縮小したことによります。2008年通年業績で概説した通り、1億3,000万ドルの正味公正評価による評価益は、主に2つの長期債に関連して計上されました。これらの債券はと変動金利とスワップされ、IFRSに基づく公正評価額のオプションを用いて会計処理されました。この会計処理に基づいて、債券と関連金利スワップは公正評価額で計算され、公正評価額の変動は損益計算書に報告されています。それぞれの債券の公正評価額は市場金利の変動を反映しており、たいていは相殺されますが、これら債券の公正評価額も信用スプレッドの変動を反映します。信用スプレッドが縮小し続ければ、2008年の利得は2009年に繰り戻されることとなります。

### 税金

実効税率は、第2四半期は34.2%（2008年は28.6%）で、上半期は31.2%（2008年は29.1%）でした。第2四半期に4億3,000万ドルの利益準備金を繰り入れた影響を除けば、実効税率は第2四半期で29.3%、上半期は29.0%となります。通年ベースでは、4億3,000万ドルの利益準備金の影響を除けば、現在約29.5%と予想されています。

### キャッシュフロー

営業活動から生じるキャッシュフローは、2009年6月30日までの6ヶ月間で53億3,400万ドルとなりましたが、前年の該当期間では42億9,200万ドルでした。10億4,200万ドルの増加は、主に営業活動から生じるキャッシュが12億2,400万ドル増えたためで、これは基礎となっている好業績と運転資本の運用の改善によるものですが、1億8,600万ドルの支払い税金の増加によって一部相殺されました。

投資活動による正味キャッシュフローの流出は、6ヶ月間で1億6,200万ドルとなりましたが、2008年の該当期間では31億9,900万ドルでした。30億3,700万ドルの変動は、主に部分償却としてメルク社に2008年に26億3,000万ドルを支払ったことと、2009年上半期にAbraxane<sup>®</sup>の共同販売権の売却益2億6,900万ドルを計上したことによるものです。

株主への配当金は、2008年の2回目の中間配当の支払により21億300万ドルとなりました。

### 資本と負債の構造

2009年6月30日現在、未払い負債残高（ローン、短期借入金および当座貸越を含む）は、116億6,100万ドル（2008年12月31日現在：118億4,800万ドル）でした。この負債の中、14億9,800万ドルが1年以内に返済期限が到来し（2008年12月31日現在：9億9,300万ドル）、当社の現在の予想では現在ある71億9,500万ドルのキャッシュ残高からの返済予定で、資金の借り換えは必要ありません。事業キャッシュフローが潤沢であるため、2008年12月31日以来正味負債が30億800万ドル減少して、41億6,600万ドルとなりました。

### 配当と自社株買い

当社取締役会は、2009年の最初の中間配当金として7%増の1株0.59ドル（36.0ペンス、4.41スウェーデン・クローナ）を、2009年9月14日に支払うことを推奨しました。

2008年に発表した通り、当社グループの自社株買いプログラムは中止されました。その結果、年初来6ヶ月間で自社株買いはありません。上半期では、合計1,900万ドルの株式オプションの行使を見込んで、60万株が発行されました。

2009年6月30日現在発行済み株式残高は、14億4,800万株です。

### 関連当事者との取引

当該期間に重要な関連当事者との取引はありません。

### カレンダー

---

2009年10月29日	2009年第3四半期・9カ月累計業績発表
2010年1月28日	2009年第4四半期・通年業績発表

最高経営責任者  
David Brennan